

平成 29 年 11 月 2 日  
日本放送協会

## 高速電力線搬送通信設備作業班（第 10 回）の資料に対する 意見について

○資料 10-5（東京電力ホールディングスの説明資料）について

### （1）漏洩電波の検討について

PLC 機器や高周波の信号を流した送配電線からの漏洩電波が放射されれば、漏洩電波が妨害となって短波放送の受信等に影響が懸念されます。

従って、これまでと同様に、屋外 PLC との共用条件の前提として議論されてきた、漏洩電波が周囲雑音以下となるように検討すべきと考えます。

なお、実際の市街地での送配電線は非常に複雑な配線経路となっているので、単純なモデル化システムでの検討や実験のみでは把握しきれないと考えます。また、複雑な配電線経路からの漏洩電波が、特定箇所に積算されれば実験データを上回る可能性があるものと考えます。

共用を検討する場合には、これらを十分考慮する必要があると考えます。

### （2）環境雑音について

年々厳しくなる環境雑音の現状確認は非常に重要であり、今回の実験されてことは、今後の貴重な基礎データになるものと考えます。

従って、調査に当たっては、第 10 回会合で、上主任ほか構成員から出ている意見を十分に踏まえ、昼夜・時間帯を変えて測定、分析上で特定雑音の排除を行うなど、客観的なものにすべきと考えます。

以上